

通学合宿とは

1 通学合宿の目的

通学合宿とは、地域の異年齢の子どもたちが、1週間程度の期間、公民館等に寝泊まりし、炊事や掃除、身の回りのことを自分たちで行いながら平常日に通学する体験活動である。子どもたちに、炊事、洗濯、買い物などを経験させたり、地域の人々の協力のもと、もらい湯などの生活体験を行わせたりするなど、集団生活、地域との交流活動を通して、人間関係力や生活力を育むことがねらいである。この事業に地域の多くの住民が関わってもらうことを通して、子どもを核とした温もりのある地域コミュニティの再生を図ることも目的としている。

通学合宿は、今日の子どもの成長を巡る課題に正面から解決を図ろうとする活動。(地域の子どもは地域で育てる 大人の本気)

2 通学合宿が求められる背景

<現 状>

- 子ども ・生活体験不足(料理、掃除、洗濯・・・)
- ・自然体験不足(ゲーム、部活・・・)
- ・関わり不足(異年齢集団との遊びの減少・・・)
- 家庭 ・核家族化(コミュニケーションの学びの場の衰退・・・)
- 地域 ・共存意識の低下(人間関係の希薄化・・・)

3 通学合宿のねらい

(1) 子どもたちにとって

- ・規則正しい生活や整理整頓などの生活習慣の定着を図る。
- ・働くことや協力することの大切さを理解する。
- ・家事などの日常生活を自分自身で行うことにより、自主性・協調性を高める。
- ・友だち(仲間)の大切さを学び、集団生活への適応力を高める。
- ・最後まで自分たちでやり遂げる大切さを知る。
- ・親のありがたみを実感する。

(2) 活動を支える大人にとって

- ・地域住民の交流や活動支援者と保護者との交流、子どもたちとのふれあいの場づくりによって地域コミュニティを構築する。
- ・地域ぐるみで子どもを育てる気運を高める。
- ・地域住民が子ども一人ひとりについて知る。

(3) 家庭(保護者)にとって

- ・親にとって“子離れ”を体験するこの期間を「我が家の家庭教育を見直す機会」とする。
- ・我が子の存在の尊さを実感する。

4 期待される効果

子ども：人間関係力、生活力、忍耐力が身につき、規則正しい生活ができるようになる。

保護者：子どもの大切さや子どもと地域のつながり、家庭教育について考えを深める機会となる。

地域：住民同士のつながりが生まれ、地域の絆が深まる。協働・共存意識が高まる。

5 通学合宿の概要

参加対象 ... 主に小学3年生～6年生。異年齢集団による実施。

参加人数 ... 生活拠点となる施設のスペースや支援スタッフの人員等を十分考慮した参加人数とする。特に施設内活動（刃物や火を使う活動）就寝時における参加者とスタッフの人数は十分な安全確保ができるよう配慮する。

生活拠点 ... 自治公民館、公立公民館等の自炊及び宿泊を可能とする施設。

実施期間 ... 平常通学日の時期における日曜日から土曜日までの6泊7日が望ましい。

参加組織 ... 就寝・更衣の場所を区切ることが可能であれば男女混成が望ましい。地域間の人間関係の再構築も目的としているので、自治会、子ども会、小学校区等を参加組織単位として実施。

活動内容 ... 日常的な生活体験（炊事、洗濯、起床・就寝の準備、入浴の準備、買い物等）を活動の柱とする。非日常的な活動を過度に組み入れない。

その他 ... 「もらい湯」等、地域の方々との交流活動を組み入れる。

<満たしたい4条件>

- a．実施期間が長期（1週間程度）であること。
- b．異年齢集団による取組であること。
- c．子どもの生活能力を培う機会の保障
- d．地域の方々との交流の組み入れ

6 通学合宿のプロセス

- (1) 実行委員会の組織化
- (2) 企画・調整のスケジュール
- (3) 支援スタッフ募集
- (4) 参加児童募集
- (5) 保護者説明会、参加児童説明会、支援スタッフ説明会
- (6) 実施
- (7) 次年度に向けての反省会